

L'aile d'Howl



【ライル・ドウル：ホウルの翼(仏語)】

August 2015

花巻ハンドボール夏の陣 2015 はジャパンオープントーナメントから！

怒涛の8月が始まりました。ハンドボール界では有名になりつつある花巻の地でも、これまで類をみない大会の連続開催。8月の花巻市総合体育館はハンドボール一色となる、ついにこの時期を迎えました。8月8日、全国のクラブチームが一同に会し、第20回ジャパンオープンハンドボールトーナメント(第71回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会)の幕は上がりました。この日、花巻温泉には全国各ブロックから勝ち上がったクラブチームの代表者が集まり、開会セレモニーが行われました。岩手県出身選手も多数出場しており、旧交を温める姿が見られました。地元代表のHC岩手・佐々木喬也さん、白梅三英扶会・高橋祐美子さんの選手宣誓により、翌日からの戦いの火ぶたが切られました。

まず女子の部ですが、準・日本リーグチームと言ってもいい香川銀行THが初戦を大差で突破し、連覇への勢いをつけます。地元・白梅三英扶会は、茨城県代表・茨城鬼怒Girlに前半10点以上リードするとそのまま後半も押し切り、35-22で見事初戦を通過しました。その他、今年国体を控え、チームの強化に力を注いでいるHC和歌山が20点差をつけて次戦へ駒を進めました。続く2回戦では、沖縄独特のリズムでゲーム展開をする那覇西クラブが準決勝進出。白梅三英扶会は兵庫県代表・GET'Sと対戦しますが、惜しくも19-14で敗退。前半に大きくリードされたことが響いて、後半の追い上げが間に合いませんでした。



準決勝を勝ち上がり、ファイナルに駒を進めたのは連覇を狙う香川銀行TH、そしてHC和歌山。かつて日本リーグで活躍した選手を擁して戦いに挑んだHC和歌山でしたが、走力に勝る香川銀行THの攻撃を阻止することができず、前半14-5と大きくリードされ万事休す。後半も前半同様の展開となり、29-14で勝利した香川銀行THが女王の座に輝きました。

さて、男子の部は、地元・HC岩手が初戦でHBC山梨を44-25と引き離して勝利し、好発進します。その他、盛岡一高で活躍した文屋晴暁選手を擁するFST(東京都代表)や、熊谷智史選手(花巻北高→秋田大)が所属する前回大会優勝者のFOG(千葉県代表)が順当に勝ち進みました。また、昨年まで日本代表キャプテンを務めた地引貴志選手がいる大同クラブ(愛知県代表)や、トヨタ紡織九州のOBチームであるレッドインパルスなど、往年の名選手が多数プレーするチームもあり、かなり見応えのある試合が展開されました。これらに加え、今年10月に国体を迎える和歌山県代表のHC和歌山、本大会の常連となっている長崎社中などが次戦に駒を進めました。残念ながらHC岩手は、愛媛県代表のEHCに2回戦で敗退。来年の本大会での活躍に期待したいと思います。

さて、迎えた準決勝は大混戦となりました。トヨタ紡織九州レッドインパルスとFOGの試合は、前半を1点リードで折り返したFOGが元実業団選手たちの追従を許さず、25-24の僅差で勝利をものにしました。一方、HC和歌山と長崎社中の一戦は、接戦となった後半最後、湧永製薬で活躍した古家雅之選手兼監督が、同点となるミドルシュートを叩き込み、延長戦に突入します。規定の第一延長戦では決着がつかず、試合はついに7MTCへ。ここ





で国体開催地の意地を見せたHC和歌山が5-3で終止符を打ち、決勝へと駒を進めました。

緊迫した試合の合間には、来年の希望郷いわて国体のPRのため、花巻中学校ハンドボール部+OB&OGの皆さんが、「わんこ体操」をハーフタイムショーとして披露してくれました。

8月12日の最終日に行われた決勝では、またも意地のぶつかり合いとなりました。前日の準決勝で延長戦を決めたゴール直後に足首を負傷し、松葉杖で会場に現れたHC和歌山の古家監督。監督のためにも優勝したいHC和歌山と、大会連覇を狙うFOGが接戦を繰り広げました。互いに一歩も譲らない試合展開は、



FOGにリードを許したHC和歌山が終盤怒涛の追い上げを見せ、ラスト1分で7MTを決めたHC和歌山が試合を延長へと持ち込みました。第一延長、必死にゴールを死守するHC和歌山に対し、ラスト15秒、FOG②小川雄也選手がその巨体をはったポストプレーで同点ゴールをもぎ取り、ついに試合は第2延長へもつれ込みました。一進一退の攻防はなおも続きましたが、HC和歌山が最後に決勝点を奪い、ようやく熱戦の幕が閉じました。今年度の国体開催県として強化を図ってきたHC和歌山が、嬉しい初優勝に輝きました。



花巻ハンドボール夏の陣！続くはミニ国体☆岩手が総合優勝！

ジャパンオープントーナメントの熱気が冷めやらぬ翌日8月13日。今度は東北6県の精鋭たちが今年度の2015年の国わかやま国体への出場権をかけて、ここ花巻市に集結しました。今回、私編集長は審判員として大会運営に参加させていただきました。では、岩手県勢の活躍をご報告いたします！

＜少年女子＞ 予選リーグで負けを喫した福島県と決勝戦で当たり、32-24で勝利しリベンジ達成。同時に、昨年にも続く優勝及び本選への出場権獲得となりました。

＜成年女子＞ こちらも予選リーグを1位で通過すると、準決勝では強豪・宮城県と激突。前半は同点となるも後半の追撃を凌いだ岩手県に軍配が上がりました。決勝では、少年女子同様福島県との対戦となりましたが、21-17で岩手県が勝利し、大会連覇を果たしました。

＜少年男子＞ 予選リーグ1組を順当に1位通過。準決勝では福島県と対戦し、1点リードを許した後半ラスト、②鈴木健央選手が起死回生の同点ミドルシュートを叩き込み、試合は延長戦へ。勢いに乗った岩手県は24-20で勝利し、なんとか決勝進出。決勝は秋田県との接戦となりましたが、勝負強さをみせた岩手県が昨年に続き優勝。堂々の本選出場を決めました。

＜成年男子＞ 大方の予想どおり、トヨタ自動車東日本＝宮城県代表と岩手県の顔合わせとなった決勝。HC岩手に学生メンバーを加えた布陣で臨んだ岩手県は、日本リーグチームに勝るとも劣らないスピードある展開をみせ、17-17の同点で前半を折り返します。後半も互いに一歩も引かず、「もしかすると岩手が勝つのでは？」という希望を抱かせる場面もありましたが、最後は実業団の意地を見せた宮城県が31-29で熱戦に終止符を打ちました。準優勝の岩手県は国体への出場権を獲得。

なお、3部門で優勝、成年男子で準優勝を果たした岩手県は、昨年に続き、東北総合体育大会の総合優勝の栄冠を手にしました。来年の希望郷いわて国体へよい形でつながるよう、本選での活躍も大いに期待したいと思います。

L'aile d'Howl (ライルドウル)

2015年8月号

2015年8月25日 発行

発行：花巻市ハンドボール協会